

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

城西中学校区	校番23	福山市立 城西中 学校
最終更新日	2020年(令和2年)11月1日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ○中学校区で課題を共有し、授業づくり、学力向上、長期欠席の減少やノメディアの取組など小中連携して取り組み、成果が上がってきている。 ●学習面の課題については、連携して重点的に取り組んではいるが、成果が十分に上がっていない。	児童生徒の現状 ○小中の連携が図られ、落ち着いて意欲的に取り組む姿が多く見られるようになってきた。 ○小中合同の取組を通して、児童生徒の人間関係の広がりや地域への貢献の意識を高めることができた。 ●「子ども主体の学び」の実現に向け、校区としての研究テーマを設定し、研究・実践を深めていく必要がある。 ●長期欠席児童が多く、小中が緊密に連携し、丁寧な取組を継続する必要がある。	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” コミュニケーション力・表現力・忍耐力	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 地域に愛着と誇りを持ち、心豊かにたくましく生きる子ども
		中学校区として統一した取組等	○自己肯定感を高める。(合同ボランティア活動・オープンスクール) ○コミュニケーション力・表現力・忍耐力をつける。(校区公開授業研究) ○健康への意識を高め、体力向上を図る。 (体力向上の取組・体力テストの分析・校区保健だよりの発行)

III 自校

ミッション 「明るく生き生きと安心して生活できる学校」をめざし、生徒、保護者、地域、職員が誇りを持って全ての人から愛される学校づくり。	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” コミュニケーション力・表現力・忍耐力
学校教育目標 心豊かに、たくましく社会を生き抜く力の育成	めざす子ども像 全学年 ○生徒が、自分自身を理解するとともに、お互いを認め合い、高めあっている。 ○生徒が、自ら疑問や課題を見つけ、解決に向け自分や仲間と意欲的に調べたり考えたりして、学び続けている。 ○生徒が、自分たちの生活をよりよくしていくために、積極的に考え、取組を企画し、仲間と協力しながら、粘り強く取り組んでいる。 ○生徒が、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加し、地域の人たちと協力して、地域を笑顔にしている。
現状 <児童生徒> ・各種学力調査において成果の出ている教科もあるが、全教科の学力の向上に至っていない。各教科において基礎的な問題の定着が不十分な領域があり、課題である。 ・「授業で考えることが面白い」と回答した生徒の割合が84%であり、学習に向かう姿勢においては、改善されてきている。 <授業・実践> ・各教科において、課題設定・提示の工夫を行うとともに、「思考の場」や「協働的な学びの場」を取り入れるなど、「子ども主体の学び」に実現に向けた授業改善を進めた。 ・ノメディアの取組を中心とし、校区での取組も定着し、望ましい生活習慣の確立へ向け、一定の成果があげられた。 ・不登校対策委員会を実施し、組織的な取組を進め、新規長期欠席者が減少するなど成果も見られたが、依然として長期欠席者が多いなど課題も残った。	研究 教科等 特別活動 生徒が学ぶ楽しさ、学ぶ喜びを実感できる授業づくり ～自ら学ぶ場、協働的な学びの場の工夫を通して～ 1 学習意欲を喚起する課題設定・提示の工夫 2 思考力育成の場を取り入れた授業の創造 3 自主学習の学習力の向上 4 個の課題に応じた効果的な支援と学習内容の創造 主題・内容等 めざす授業の姿 【生徒が学ぶ楽しさ、学ぶ喜びを実感できる授業】 ・自ら疑問や課題を持ち、解決へ向け、意欲的に調べたり考えたりして、学び続けている。 ・「考えを書く」「伝え合う」「話し合う」場が設定され、仲間とともに対話的・協働的に学んでいる。 ・個の課題に合わせた支援が適切に行われ、一人一人が達成感を持ち、学ぶ喜びを味わっている。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 城西中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
2	学力の確実な 定着・向上	★	新規	生徒が学ぶ 楽しさ、学ぶ 喜びを実感 できる授業 づくりの推 進 【小中一貫】	○学習意欲 を高めると ともに、思 考力を育成 する授業の 創造 ○個の課題 に応じた支 援・学習内 容による自 主学習力の 向上	△生徒アンケ ートで『授業 で考えること が面白い』の 肯定的評価を 90%以上に する。 △QUアンケ ートで「学習 意欲」の項目 を全国平均以 上にする。	・生徒アンケート『授業で考えることが面白い』の肯定的評価は81%であった。課題解決型の授業やICTの導入等により、生徒主体の授業づくりへ向けて授業の工夫をしている。 ・QUアンケート「学習意欲」の項目は全国差が+0.6であった。	3	3	・全授業で主体的で対話的な授業を積極的に取り入れるため、「考えを書く」「伝え合う」「話し合う」についてさらなる工夫を行う。 ・モデルとなる生徒の授業ノートやレポート等を紹介・掲示し、自分なりの学習の仕方を見つけられるよう促し、学習意欲を高める。 ・学習の不十分な生徒に対して、励ましの指導を行いつつ、家庭と連携しながら個への支援を行う。				
3	自己指導能力 (主体性・積極性)の育成		新規	生徒の自主 的・主体的活 動の推進	○生徒が企画・運営する活動の推進 ○地域でのボランティア活動など、地域と連携した活動の充実	△QUアンケ ートで「学校 生活意欲プロ フィール」の 総合点を全 国平均以上 にする。 △生徒アンケ ートで『応援 をもらう行 動ができた』 の肯定的評 価を90%以 上にする。	・「学校生活意欲プロフィール」総合点は、全国平均+3.9～+6.1で総合評価が80%を超えている。生徒主体の学校行事「城祭」を、生徒が企画・運営した。 ・生徒アンケート「周りの人のために行動してもらう行動ができた」の肯定的評価78%であった。コロナウイルス感染症予防のため、地域でのボランティア活動が実施されず、地域と連携した活動を行うことができなかった。	3	3	・生徒の意欲が高まるような指導の在り方について、研究・実践・検証していく。 ・感染症予防対策をしながら、学校美化活動などのボランティア活動の取組を、委員会や部活動を主体に行っていく。				

2	組織的・積極的な指導体制の充実	★	継続	「社会的な自立」に向けた支援の充実	○保護者、関係機関との連携による長期欠席生徒の減少 △新規の長期欠席生徒を0人にする。	・新規の長期欠席生徒は0名であった。 ・学校だけでなく、関係機関との適切な連携を行うことができている。	4	4	・継続して月2回の不登校対策委員会を実施する。 ・学校カウンセラー・関係機関と連携し、登校できていない生徒・保護者への教育相談を実施していく。					
			継続	生徒と向き合う時間の確保	○一層の業務改善による生徒と向き合う場や時間の確保 △『授業づくりにあてる時間が確保できている』の肯定的評価を60%以上に △時間外勤務が45時間を超える教職員を0人にする。	・「授業づくりにあてる時間が確保できている」は95%であった。 ・7月の45時間越えは10人であった。休日の部活動時間と普段の時間外の調整が難しい月がある。	3	3	・タイムマネジメントの工夫点を交流し、45時間0人を目指し、意識を高める。 ・丁寧な対応や指導方針の説明を心がけ、授業改善と業務改善をセットで進めていく。					

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。